

# この人に聞く

## アポログループ CEO 相良 元章 さん



— 2019年5月にグループCEOに就任し、1年半余が経過しました。

「当社は2021年に創立50周年を迎えます。50年に渡って企業活動を続けて来ると、それまでのやり方が時代やニーズに合わなかったりすることもあります。また、創業時に比べ会社も大きくなったほか、法律等も変わってきました。

こういった時、自分が社長に就任した役割を考えると、今後50年はおおげさかもしれませんが、20年先の道筋を考えていきたいと思い、この1年間は社内改革を行い、具体的には人材にスポットを当て取り組んできました。モチベーションを上げて取り組む姿勢が見えてきた一方で、いままでのやり方から変わったことでベテラン社員からは戸惑いの声もあり、悩ましい時もありましたが、初志貫徹を通した1年間だったと思います」

— 新型コロナウイルスが猛威を振るっていますが、その影響は。

「緊急事態宣言が発令され、飲食店等が営業自粛になったことで業務用のガス使用量が下がりました。一方、グループ全体では在宅率が上がったことで、家全体を見直す機会も増えたためか、リフォーム等を手がける『ほっとリビング』では、夏までは小さな修繕が多く、秋以降は通常の依頼が増えました。新築住宅を扱う『フェニーチェ』では、一昨年は消費税増税の影響もあってか、大きく伸びませんでした。昨年のコロナ禍では影

響が少なく安心しているところです。

一方で、会社内についたてを設置するなどの感染対策を行いました。それにより社内コミュニケーションが悪くなったと感じます。また、接触機会を減らそうとする中、若手社員が仕事の相談ができずに行き詰まるケースもあり、人的交流やコミュニケーションがとりにくくなるなどの影響が生じています。コロナ禍でデジタルツールの進化を感じましたが、人同士が向き合っているコミュニケーションの大切さをあらためて実感しました」

— 今後の抱負を。

「県が2040年代までに再生可能エネルギーを100%にする方針を打ち出しましたが、当社でもその力になればと太陽光発電事業などを行ってきました。同時に電気を使用する側も省エネに取り組んでいくことが必要です。今後は省エネやエネルギー効率を上げるような住宅、設備の提案をしていきたいと思っています。

また、昨年以降、『脱ガソリン車』ということが叫ばれるようになりました。こうした流れを受け、グループ内では商用で日本初となる水素式ステーションの運行を行うふくしまハイドロサブライを立ち上げました。いままでも、さいたまスーパーアリーナで行われたコンサートに水素自動車でも電源供給を行うなど、様々な取り組みを行ってきましたが、今後も自治体やメーカーとの連携をさらに進めていきたいと思っています」